



## 読者からの声

石川医報の「読者からの声」は、会員がいろいろな意見を交換する場です。  
ぜひ、皆様からのご意見、ご投稿をお待ちしております。  
(編集部より)

### 女性医師の窓

## 母親、主婦、ときどき小児科医

城北病院 小児科 三上真理子

小児科医であり、3人の息子の母であり、兼業主婦でもある私の朝は、4時の目覚まし時計との闘いから始まります。朝の4時です。なぜその時間なのか？

もともと朝型の生活をするタイプではありました。私の母親が夜は早く寝なさいとよく言っていて、中学生の時でも22時まで勉強していたら早く寝よう言ってくるため、それなら、と朝早くに起きて勉強していたのです。それもあってか、医師2年目で長男を出産し復帰して以降は、いまの朝型の生活スタイルになりました。夜、子どもがなかなか寝ないとイライラするので一緒に(時には子どもより先に)寝てしまい、家事は朝起きてするようになりました。メリットはたくさんあります。まずは一人の時間が持てること。のんびりできるわけではありませんが、夜だと主人が晩酌している横で家事をするのはストレスになることもあります。朝だと誰もいない静まりかえった部屋で一人自分のペースで家事ができます。また、外が明るくなる時間で季節を感じられ、夏は4時前から空が白んできます。今の時期だとしんしんと雪が降る明け方はさらに静けさが増し、何とも言えない凜とした空気に包まれます。

私は今は非常勤勤務ですが、長男出産後はフルタイムで仕事をしていました。当時は関東の病院に勤務していて、夜遅くまで病棟の仕事があるときは、保育園に迎えに行き子連れでまた病棟に戻って仕事をしたものです。次男、三男、と子どもが増えるにつれ病棟に連れて行くわけにもいかず(仕事にならない)、今は午前の外来業務中心の非常勤勤務となっています。家族が増えれば家事量も増大し、朝起きる時間も徐々に早くなりいまの4時起床となっています。午前の外来だけとはいえ午後遅くまでかかることも多く、他にも園や小学校の行事など何かと予定が入り慌ただしい毎日です。

そんな中、診療現場では親御さんから、「女の先生だからか、(子供が)病院で泣かないなんて初めてです」と言われたり、自身の子育て経験を踏まえてお話しすると「安心しました」と言ってもらえたりするとやりがいを感じます。

女性医師が活躍する診療場面は多くあると思います。しかし、女性には妊娠・出産、育児、家事、介護の負担も多くあります。近年は男性も担ってくれる家庭は多いようで、土曜日の小児科外来朝一番の患者さんがお父さんと来院というケースもよくあり、朝早くから偉いなぁと感心しています。

ただやはり一般的には、諸先輩先生方のように多くの仕事をこなすことが、物理的に難しい女性医師もいると思います。一方で、女子医学生数は年々増加傾向にあり、北陸の某大学では半分が女性という学年もあるようです。その女性医師が出産・育児を機に医師を辞めてしまうと、男性医師の負担が大きくなるばかりです。ぜひ、女性医師の職場以外での家事/育児の仕事量をご理解頂き、医師(男性医師も含め)が働きやすい環境、周囲の理解、そして制度等を整えて頂けると、女性医師も仕事を続けやすいと思います。

私自身もこれまで多くの先生やスタッフに助けられ、今まで医師と母親を続けていくことができました。最近では徐々に育児の負担も減ってきたので、今後は医師としての業務時間を増やして、日々研鑽を積んでいきたいと思っています。